

# 多職種が連携して実施する 保健指導のポイント

「標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21(第2次)」の達成に向けて～」(平成27年3月発行)(以後、「手引き」と略します)第6章もご参照ください。

# 内容

- 1 本節について
- 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント
  - 1) 1か月児健診
  - 2) 3～4か月児健診
  - 3) 9～10か月児健診
  - 4) 1歳6か月児健診
  - 5) 3歳児健診

# 1 本節について

## ➤ 本節のねらい

乳幼児健診で保健指導をする際に、確認すべき事項とそのポイントを簡略的に概観できる

## ➤ 研究班が既にまとめた「手引き」※を再構成・加筆

手引きP64～65で記載していた確認事項に加えて、その具体的ポイントを加筆

## ➤ 多職種の視点から作成

主に医師、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、保健師・助産師等看護職が協力して作成

※手引き…タイトルページをご参照ください

# 1 本節について

## ▶ 本節の構成

主な健診時期別に

- ①その時期の特徴を概説
- ②保健指導のポイントを記載（表）  
（表は冊子体のみに掲載）

保健指導のポイントの詳細（表）は冊子体をご覧ください。

# 1 本節について

## ➤ 本節の活用方法の例

- ・各健診に従事する際に、その時期の保健指導のポイントを振り返る
- ・最後にある全体表をみて、どのように変化していくかを確認し、見通しのある保健指導につなげる
- ・他の職種の基本的視点について確認し、役割分担や多職種連携の際の資料とする
- ・本節はポイントのみなので、関連文献なども参照しながらさらに学習を深めるといったような、専門職としての自律的・継続的学習の参考資料とする  
など...

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### ➤ 保健指導の基本

#### ・乳幼児健診における保健指導の目的

「親子の顕在的および潜在的健康課題を明確化し、その健康課題の解決に向けて親子が主体的に取り組むことができるよう支援すること」

#### ・短時間となる乳幼児健診での保健指導で全てを解決できないことも...

対象者の困りごとに耳を傾ける

対象者と一緒に課題を整理（潜在的課題含む）

健診結果で得られた情報も含めて総合的判断

必要に応じて、次の支援につなげることが重要

（詳細は第2章第1節をご参照ください）

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 1) 1か月児健診

#### (1) 生後1か月頃の子どもの身体的特徴

- ・原始反射がまだ認められる時期
- ・大きな音には四肢を動かして反応する。また、良好な対光反射がみられる。
- ・体重増加は1日20～50gであり、生理的体重減少の最小値以降の1日あたりの増加分を計算する。
- ・仰臥位では、四肢を良く動かす。
- ・特にこの時期は、①体重増加不良、哺乳力の弱さ、②筋緊張低下、③皮膚色不良、④嘔吐、下痢、⑤臍炎・臍肉芽腫、臍ヘルニアに注意する。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 1) 1か月児健診

#### (2) 保健指導の特徴

- ・栄養指導においては、この時期は栄養面だけではなく、母体の回復やアタッチメント（愛着）の形成、子どもの免疫力、乳幼児突然死症候群（Sudden infant death syndrome; SIDS）の予防などの面からも、母乳育児をサポート
- ・体重増加不良や保護者の不安、乳房トラブル等がある場合は可能な限り、母乳育児に関する専門職（助産師・保健師・看護師・管理栄養士など）と一緒に授乳の実際の様子やリズムを確認し、相談対応するようにつなぐ。



## 2 健診の時期別に見た保健指導のポイント

### 1) 1か月児健診

#### (2) この時期によくある保護者の心配事

- ・「顔や体のブツブツ」「ゲップが出づらい」「鼻づまり」「よく吐く」「おしりかぶれ」「授乳量がわからない」など
- ・生後2週間から1か月頃は、育児不安が最も強く現れる時期
- ・保護者からの質問には丁寧に答えるとともに、保護者の表情や養育態度も観察して問題がありそうな場合は必ず継続フォローとして、関係機関と連携してサポートしていく。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 1) 1か月児健診

#### (3) 留意点

- ・保護者と児を取り巻く家族の存在も大きい時期
- ・1か月児健診は、産科退院後初めての外出であることが多いため、保護者へのねぎらいの声掛けは重要
- ・体重増加が良く一般状態が良好であれば、育児がうまくいっていることを強調して保護者をねぎらい、エンパワーする。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 2) 3～4か月児健診

#### (1) 保護者との信頼関係の構築

3～4か月児健診は、親子が初めて地域の保健機関に出向く機会であることも多いため、地域の安心できる育児の相談支援機関となるよう、信頼される関係を築くことが重要

#### (2) 保健指導・支援のきっかけ

授乳・睡眠・排泄といった基本的な生活習慣等から丁寧に話をきいていくことは、保健指導・支援のきっかけとなりやすい。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 2) 3～4か月児健診

#### (3) 授乳に関する支援と離乳開始に向けた支援

- ・栄養指導に関しては現在の授乳状況等だけでなく、離乳開始に向けた準備の時期であることを念頭におく。
- ・乳房トラブルについては新生児期から健診時までの状況を確認し、適切な授乳方法を継続できるよう支援。

#### (4) 保護者の精神的健康状態、親子関係

- ・1か月児健診の時期から引き続いて、産後うつの可能性なども継続して把握しておく。
- ・さらに、子どものあやし方からアタッチメントの形成状況など親子関係について把握し、基本的信頼感の確立について確認する。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 2) 3～4か月児健診

#### (5) 事故予防

- ・事故、乳幼児突然死症候群(Sudden Infant Death Syndrome; SIDS)、乳幼児揺さぶられ症候群(Shaken Baby Syndrome; SBS)などの予防に関する指導
- ・児の発達をみすえて、先を見通した事故予防対策についても保護者に伝える。

#### (6) 保護者の支援体制の確認

保護者の身体的精神的負担感や問題解決能力、育児の相談者や協力者の存在、子どもの受容等、保護者の育児に関する生活の質やソーシャル・サポートおよびネットワークを把握する。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 3) 9～10か月児健診

#### (1) この時期の特徴

- ・ 好奇心が旺盛、盛んに模倣遊びも始まる
- ・ 「ダメ」というような簡単な大人の言うことを理解したり、音に意味のない言葉(喃語)を盛んに発するようになる
- ・ 表情も豊かになる時期であるが、人見知りの強い時期でもある。
- ・ 粗大運動の発達では、座位の安定性が高まり、座位のまま長時間遊ぶようになったり、つかまり立ちもできるようになる。「よちよち歩き」を始めている子もいる。
- ・ 一方で、座位のみで、つかまり立ちやはいはいをしていない子もいる。中には座ったまま移動し独歩が遅れる「シャフリングベビー」という児もいる。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 3) 9～10か月児健診

#### (1) この時期の特徴

- ・微細運動では、手先も器用になり、拇指、示指、中指を使う橈側握りが上達し、小さい物をつかんだり、片手で持ったものを逆の手に持ち変えも可能に
- ・微細運動や精神発達等に問題がない場合は特に心配はいらぬことが多いが、診察等での確認が重要
- ・食生活では、離乳の完了にむけ、1日の食事・生活リズムを整える

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 3) 9～10か月児健診

#### (2) 発達のバリエーションが大きい時期

- ・子ども一人ひとりの発達のバリエーションが大きい時期であり、保護者が発達の遅れなどに気が付きにくい時期でもある
- ・一方で自分の子どもの発達の状況が、遅れているのか、正常の範囲内なのか不安を抱きやすい時期でもある
- ・先の見通しをもった助言や、発達の遅れや疾病などのリスクばかりの説明ではなく、子どもの発育・発達の支援や安心のために経過を確認するなどの声かけが必要



## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 4) 1歳6か月児健診

#### (1) この時期の特徴

- ・乳児期から幼児期へ移行し、自我の芽生え、一人歩きや意味のある単語を話すなど発育・発達の節目
- ・育児ポイントや育児不安も大きく変化する時期
- ・人とのやりとりを通して、コミュニケーション力が育まれ、言葉の理解や発言が広がる
  - 子どもの発達や、食事や生活リズムなどの生活習慣、親子関係など丁寧な聞き取りと観察、必要に応じた経過観察も重要

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 4) 1歳6か月児健診

#### (2) 留意点

- ・生活リズム、遊びの時間と内容、精神発達や身体発達の確認とこれに見合う遊びの実施状況を把握
- ・個別に合わせて具体的な方法の指導をし、必要に応じて継続支援につなげる。
- ・食生活のリズム、食品の種類と組み合わせ、調理形態、家族と楽しく食べる食生活習慣や子どもの食行動などについて確認
- ・歯・口腔機能では、乳前歯が8本生えそろい、乳臼歯が生えてくる時期。う蝕予防のため、フッ化物配合歯磨剤を用いた仕上げみがき習慣の確立やフッ化物歯面塗布および甘味摂取の状況などを確認する。

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 5) 3歳児健診

#### (1) この時期の特徴

- ・食習慣、歯磨き習慣、睡眠時間、排泄の自立、遊び等、健康的な基礎習慣が確立する時期で
- ・友達遊びができるようになり、家庭外へ関心が向き社会性が発達する
- ・健診ではその様な発達段階をふまえ、今後も子どもの社会性の発達が促される方向にあるか留意し、保護者が子どもを手助けする関わりができているかを確認

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 5) 3歳児健診

(2) 就学時までの最後の健診となる自治体が多い

- ・ 集団生活の開始に向けた視点からも、社会性を中心とした発達の確認および健康的な生活習慣の確立の確認が重要

## 2 健診の時期別にみた保健指導のポイント

### 5) 3歳児健診

#### (3) 留意点

- ・食生活のリズム、調理形態、子どもの食行動、スプーンや箸の使用状況
- ・様々な人との共食を楽しむ食生活習慣が身についてきているか
- ・歯・口腔機能では、乳歯20本が生えそろう
- ・う蝕を持つ子どもが増える時期
- ・う蝕の有無だけではなく歯列不正に影響する口腔習癖の確認も重要